

令和5年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

就労者に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	一般財団法人 海外産業人材育成協会
事業名	現職日本語教師研修プログラム普及事業
研修実施地域	全国8ブロック
事業実施期間	令和5年4月～令和6年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者97名中、研修修了者93名

1. 事業概要

○事業趣旨

本事業は、文化審議会国語分科会によって取りまとめられた「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版」(平成31年3月)(以下、「養成・研修報告」という)で示された日本語教育人材に求められる資質・能力の向上を図ることを目的とした文化庁委託事業であり、一般財団法人海外産業人材育成協会(以下、「AOTS」という)は、「就労者に対する日本語教師【初任】研修」を通して当該教師初任に求められる資質・能力の向上を図るとともに、「養成・研修報告」の円滑な普及を促すことを趣旨として事業を実施した。

○事業目的

国内の外国人就労者は増加の一途をたどり、その在留資格や職種なども多岐にわたる。中でも、技能実習、特定技能、特定活動(EPA候補者)、技術研修生等の就労者(以下、「技能人材」という)は、就労を主な目的とした在留資格を有する外国人全体の約半数を占めており、既に日本の社会基盤を支える働き手として不可欠かつ貴重な存在である。

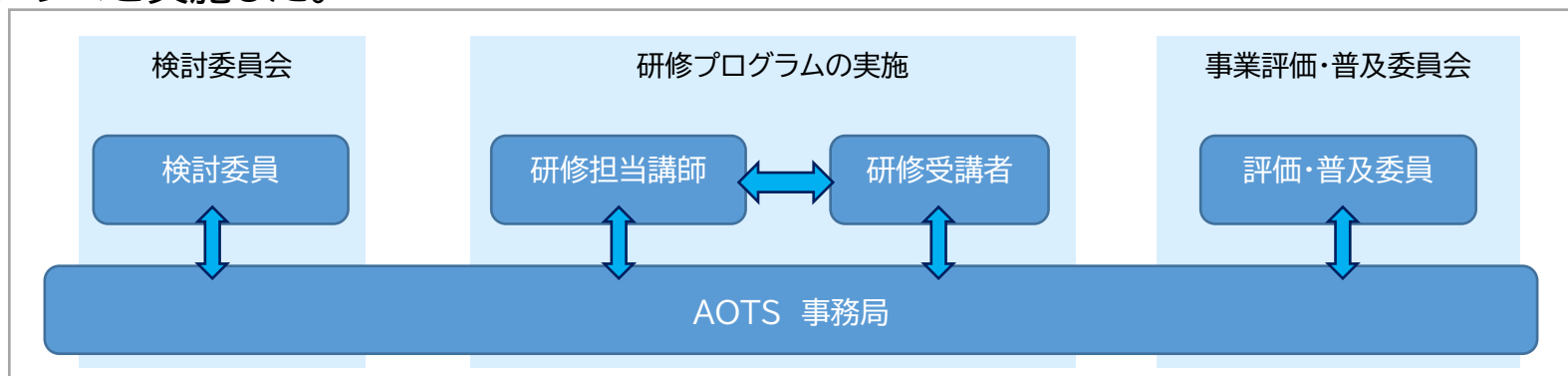
技能人材の増加に伴い、就労者に対する日本語教育のニーズが高まる一方で、それらを体系的に行うための専門的な知識・技能を有する日本語教師は、その絶対数が不足している状況にある。

このような背景のもと、AOTSは技能人材向け日本語教育の長年の経験と産業界とのネットワークを最大限に活かした研修プログラムを提供することで、現職日本語教師研修の分野で就労者に対する日本語教育の発展に寄与することを目的として本事業を実施した。

1. 事業概要

○実施体制

AOTS日本語教育センターが事務局として委員、講師、協力者、受講者の窓口となり、事業及び研修プログラムを実施した。



○事業の取組スケジュール

実施期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(a) 研修プログラム実施委員会		検討委員会開催	事業実施詳細検討									
(b) 研修プログラムの実施			広報・募集活動	各科目内容詳細検討・教材等作成			研修プログラム実施					
(c) その他関連する取組				オンデマンド動画作成	LMS基盤構築		LMS運用	受講者・講師・事務局ネットワーキング	一部科目、運営実施マニュアル一般公開			
(d) 事業評価										評価・普及委員会開催	改善検討・事業評価	

1. 事業概要

事業の取組内容				
研修事前	4月 ～5月	研修体制・方法の検討	・事業実施の全体スケジュール検討 ・外部有識者含む検討委員会の開催（実施体制、研修内容・方法、評価方法、事業成果の普及等の検討）	
	6月	研修実施準備	・事業及び研修プログラム実施方針の確定 ・事業広報、受講者募集、申込受付	
	7月		・担当講師との検討会議実施、シラバス確定 ・オンデマンド動画、講義資料、小テスト等の教材作成開始	
	8月		・学習管理システム(LMS)選定、決定 ・LMS運用構築に向けた準備	
	9月		・LMS準備、実装、利用開始 ・受講者への研修受講案内及び対応	その他、関連する取り組み ・LMS運用方法の構築 ・受講者間ネットワーキング ・一部科目の一般公開と事業広報 ・コースデザイン成果物の公開 ・研修運営実施マニュアル公開 ・修了者の進路アンケート実施
研修実施	10月 ～12月	研修プログラムの実施	・研修プログラム実施 ・LMS運用、受講者管理	
研修事後	1月	事業全体の成果の評価	・受講者の出席率、課題及び成果物の確認 ・修了証書発行 ・外部有識者含む評価・普及委員会開催	
	2月 ～3月		・評価、改善検討 ・事業報告書作成	

2. 各研修の概要

研修プログラム概要	
事業名	令和5年度文化庁委託 現職日本語教師研修プログラム普及事業 就労者に対する日本語教師【初任】研修
研修プログラム名	技能人材に教えたい人のための「就労者に対する日本語教師初任者研修」 —ゲンバのニーズに対応した実践的指導法とコースデザイン能力を身に着ける—
研修実施期間	2023年10月7日～2023年12月23日
実施日程	①10月7日(土) ②10月14日(土) ③10月21日(土) ④10月28日(土) ⑤11月11(土) ⑥11月18日(土) ⑦12月2日(土) ⑧12月9日(土) ⑨12月16日(土) ⑩12月23日(土)
科目数	21科目
単位数	54単位
実施形態	同期型・非同期型を組み合わせた全プログラムオンライン研修
受講対象者	「日本語教育機関の告示基準」第1条第1項13号の教員要件のいずれかを満たす者、かつ原則として就労者に対する日本語教育歴0～3年程度の者* * 研修プログラムにおける受講者間の学び合いやグループディスカッションの活性化のため、就労者に対する日本語教育歴が4年以上の場合でも、研修プログラム内容が自身にとって妥当とご判断した場合は申込可とした。ただし、その場合、研修プログラム内のグループ活動や演習等において、知識や経験を他受講者に共有したり、グループ内でリーダーシップをとるなどの役割を担うことを追加条件とした。
受講定員数	100名
受講料	4,000円(税込)
修了要件	事前動画視聴を含む全体の2/3に出席し、AOTSが定めた課題・成果物をすべて提出すること。

2. 各研修の概要

○研修の目的・ねらい

就労者(特に技能人材)に対する日本語教育を行うための知識・技能を有し、
学習者や受入れ企業の求めに応じて日本語教育を提供できる日本語教師を育成する。

○研修の特徴

本研修では技能人材にフォーカスし、その在留資格や制度、求められる日本語能力や試験などの背景を理解するとともに、
技能人材に対する日本語教材や教授法等の実践的な技能を身につけた上で、技能人材向けコースデザインを作成する。

○到達目標

上記のとおり、研修を通して就労者のニーズに対応した実践的な日本語指導能力とコースデザイン能力を養成することを主な目標とし、
以下の到達目標を設定した。

- ①技能人材を取り巻く制度や社会の実情、産業界のニーズを理解することができる。
- ②職場で生じる言語・文化的な問題を理解し、技能人材や企業に寄り添うことができる。
- ③業務遂行のための日本語教育を実践するために必要な情報を自ら収集し、それを活用できる。
- ④技能人材や企業のニーズに応じたコースデザインを行うことができる。
- ⑤技能人材や企業に対して日本語教育の必要性や学習成果等をわかりやすく伝えることができる。

○研修の重点課題

上記の目標を達成するため、以下5つの重点課題を設定したカリキュラム構成とした。※カリキュラム詳細は次スライド参照

- ・産業界のニーズ把握
- ・学習内容の絞り込みと最適化
- ・実践的な指導を実現するための学習リソースとコミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法
- ・技能人材向けの評価とアカウンタビリティ
- ・コースデザイン能力

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

○各科目の担当講師、カリキュラム内容、「求められる資質・能力」との関係

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就 労者に対する日本語教師【初 任】に求められる資質・能力」
第1回 10/7 (土)	1	就労者に対する日本語 教育概論	杉山充 AOTS日本語教育 センター センター長	・研修受講前における就労者に対する日本語教師に求めら れる資質・能力についての自己評価を行う。 ・就労者の多様性とその日本語教育の特徴・重点課題を理 解する。 ・AOTSの研修を例に各自の日本語教育に携わる立場や役 割をイメージする。	知識:(1),(2),(3) 態度:(1),(7)
	2	外国人の受け入れ政策 と日本語教師	神吉宇一 武蔵野大学 教授	・外国人材受入れに関する法律や政策、背景となる日本の 社会状況に目を向ける。 ・就労者に対する日本語教育を行う日本語教師・日本語教 育関係者としての役割を多角的かつ具体的に考える。	知識:(1),(2),(3) 態度:(1),(7)
	3	外国人就労者に関わる 制度	折茂純哉 ACROSEED 行政書士 マネー ジャー	・外国人就労者の制度の基礎知識(在留資格・条件、労働関 連法など)を理解する。 ・外国人就労者受け入れ制度の課題、外国人就労者受け入 れ企業で生じている問題(メンタルヘルス・海外との社会保 障制度の違い等)について知る。	知識:(1),(2) 態度:(7)
第2回 10/14 (土)	4	職種・職位によって求め られる日本語教育 ー制度における日本語 能力要件ー	杉山充 AOTS日本語教育セ ンター センター長	・技能実習生や特定技能外国人材が日本で働きキャリアを 形成する際に制度上求められる日本語能力要件や企業側 が講じる日本語学習の支援について理解する。 ・就労者が受験する日本語能力を測る試験や技能を測る試 験の概要、試験サンプルや学習リソースへのアクセス方法 を理解した上で、日本語教師に何が期待されるか考える。	知識:(1),(2),(3),(4) 技能:(1),(2) 態度:(1),(2),(5),(7)
	5	就労現場における異文 化受容・異文化適応	近藤彩 昭和女子大学 教授 同大学院 文学研究 科 研究科長	・異文化接触における個人及び集団への影響や異文化受容 態度について理解する。 ・就労外国人の職場で生じるトラブルの具体例を知り、支援 の方向性について考える。	知識:(4),(5) 技能:(4) 態度:(1),(2),(5)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」
第3回 10/21 (土)	6	技能実習・特定技能のための仕事・生活の日本語教育－教材『あたらしいじっせんにほんご』を例に－	新野佳子 国際日本語普及協会 (AJALT)	・教材『あたらしいじっせんにほんご』を実際に手に取り、同教材の構成や特徴、教え方について理解し、就労者に対する指導法の一つとして同教材の活用方法を理解する。 ・グループディスカッションを通して就労者に対する日本語教授法について考えを深める。	知識:(6) 技能:(1),(2) 態度:(1)
	7	生活・就労者の日本語教育－地域日本語教室で学ぶ技能人材－	萬浪絵理 千葉市国際交流協会委嘱 千葉市地域日本語教育推進事業 総括コーディネーター	・就労者の「生活者」としての側面に対して必要な日本語教育の理解を深める。 ・地域日本語教室の事例をもとに、地域日本語教育は技能人材をはじめとする就労者にとってどのような役割や意味があるのかを考える。	技能:(7),(8) 態度:(2),(3),(5),(7),(8)
	8	現場の企業担当者・外国人就労者の声を聞く ①・②	①ミドリ久慈衣料株式会社 ※事前収録動画の視聴のみ ②五島工業株式会社 ※事前収録動画の視聴のみ	・外国人就労者の受入企業の日本人担当者の語りを聞き、外国人材の受入れに至った経緯や目的、日本語の必要性やそのレベル、外国人受入れにかかる取り組みや問題について知り、日本語教師としてできることを考える。 ・企業にて就労する技能実習生を事例として、来日経緯や目的、就労現場での業務内容や問題、必要となる日本語や日本人とのコミュニケーションで気を付けていることや生じたトラブルを知り、就労者に対して必要な日本語教育の内容や接し方を考える。	知識:(3) 技能:(7),(8) 態度:(1),(3),(5),(8)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就 労者に対する日本語教師【初 任】に求められる資質・能力」
第4回 10/28 (土)	9	【事例研究】外国人 介護人材の就労と 日本語教育	白井孝子 東京福祉専門学校 副学校長	・外国人介護人材の受入れに関する社会背景や制度、 介護福祉士の資格や在留資格、業務内容について理解 する。 ・介護施設の利用者やそこでの一日の生活、介護知識・ 技術について知り、日本人職員とのコミュニケーション 場面において求められる日本語能力について理解した 上で、介護職種を事例に職種別日本語教育をどのよう に実践するか考える。	知識:(1),(2),(3),(5) 態度:(1),(3),(5),(7),(8)
	10	【事例研究】介護人 材向けの専門日本 語教育 ー介護の就労者向 けウェブ教材「にほ んごをまなぼう」を 例にー	小林亨 日本介護福祉士会 国際介護人材支援チーム 主査	・ウェブサイト「にほんごをまなぼう」に実際にアクセスし、 同教材の対象者、構成、内容、種別(外国人向け学習コ ンテンツ・日本人向け手引き)を理解する。 ・外国人介護人材向けのカリキュラムやコースデザイン を作成する際に、同ウェブサイトを教材リソースとして 効果的に活用する方法を考える。	知識:(6),(7) 技能:(3) 態度:(4)
	11	現場の介護施設担 当者・外国人介護 人材の声を聞く ①・②	①健祥会グループ ※事前収録動画の視聴のみ ②社会福祉法人 旭福社会 特別養護老人ホームやすら ぎ園 ※事前収録動画の視聴のみ	・外国人介護人材の受入施設の日本人担当者の語りを 聞き、外国人材の受入れに至った経緯や目的、日本語 の必要性やそのレベル、外国人受入れにかかる取り組 みや問題について知り、日本語教師としてできることを 考える。 ・介護施設にて就労する外国人介護人材を事例として、 来日経緯や目的、就労現場での業務内容や問題、必要 となる日本語や日本人とのコミュニケーションで気を付 けていることや生じたトラブルを知り、就労者に対して 必要な日本語教育の内容や接し方を考える。	知識:(3) 技能:(7),(8) 態度:(1),(3),(5),(8)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就 労者に対する日本語教師【初 任】に求められる資質・能力」
第5回 11/11 (土)	12	職種別の日本語の指導法 – ウェブ教材/アプリ「げんばの にほんご」(外国人技能実習機 構)を例に –	飯塚知子 AOTS日本語教育 専門家	・ウェブ/アプリ教材「げんばのにほんご」(外国人技能実習機構)に実際にアクセスし、同教材の構成や特徴について理解する。 ・講義やグループディスカッションを通して同教材の具体的かつ効果的な指導法について考えを深める。	知識:(6),(7) 技能:(1),(3) 態度:(1),(4)
	13	技能人材と語彙学習 –どんな言葉の学習が必要か 考える–	飯塚知子 AOTS日本語教育 専門家	・技能人材が就労するうえで必要となる言葉の特徴、既存の語彙教材を知る。 ・ある職種を想定した学習語彙リストを作成する。作成にあたり、形態素解析、表計算ソフトを使った語彙頻度の集計、語彙の取捨選択の方法などを身につける。	知識:(5),(6) 技能:(2),(3) 態度:(1),(3)
	14	就労現場でのコミュニケー ション能力を高めるための指 導法 –教材『ゲンバの日本 語』を例に –	内海陽子 AOTS日本語教育 センター	・教材『ゲンバの日本語』を実際に手に取り、同教材の対象者と教材の概要と特長、構成について理解する。 ・AOTSの技術研修生向けの日本語教育を例として、コミュニケーション能力を高める指導方法、教材活用を理解する。 ・教材理念に基づく対学習者・教師間の対応について考えを深める。 ・実際に指導する際の留意点について考え、同教材の効果的な指導法の理解を深める。	知識:(5),(6) 技能:(1),(2),(4) 態度:(1),(2)
	15	技能人材と会話学習 –コミュニケーションストラテ ジーが学べる会話を考える–	飯塚知子 AOTS日本語教育 専門家	・技能人材が就労現場で必要とされる日本語や日本人社員とのコミュニケーションの特徴を理解した上で、どんなコミュニケーションストラテジーが必要かを考える。 ・就労現場で必要なコミュニケーションストラテジーを探すことができ、会話を教える際に取り入れることができるようになる。 ・コミュニケーションストラテジーを意識した会話学習のための学習活動デザインの考えを深める。	知識:(5),(6) 技能:(1),(2),(4) 態度:(1),(2)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就労者 に対する日本語教師【初任】に求め られる資質・能力」
第6回 11/18 (土)	16	コミュニケーション能力 を養成する短期速習の 教授法 -AOTSでの 技術研修生向け日本語 研修をモデルにして-	矢島康江 AOTS東京研修センター グループ長補佐/日本語 コーディネーター	・就労現場で求められるコミュニケーション 能力とは何かを知り、その能力を短期間で 養成するための指導のポイントをAOTSの 実践例を通して学ぶ。 ・本科目で学んだ「話す力・聞く力を短期間 で伸ばす指導法」を受講者各自の教育現場 でどのように応用し実践できるかを考える。	知識:(6) 技能:(1),(2) 態度:(1)
	17	就労者に対する自律学 習支援とスローラー ナーへの対応 -AOTSでの技術研修 生やEPA候補者への実 践を事例にして-	常次亨介 AOTS日本語教育センター 主任/日本語コーディネ ーター	・就労者向け日本語教育における自律学習 支援の必要性を理解し、AOTSの事例を もとに自身の教育実践でどのような支援 ができるかを考える。 ・AOTSの日本語研修を事例に、日本語学 習に困難を抱える就労者の状況を理解し、 スローラーナーへの対応や支援を考える。	知識:(7) 技能:(1),(2),(3) 態度:(1),(4),(6)
	18	就労者の日本語学習に 対する評価 -行動能 力目標とパフォーマンス 評価-	内海陽子 AOTS日本語教育センター	・「日本語教育の参照枠」及び「就労Can do」について理解を深めた上で、それを就 労者に対する日本語教育に応用する方法 についてAOTSの事例を通して理解する。 ・就労現場で必要な行動能力目標とそれ に対応するパフォーマンス試験を行うにあ たり、それぞれの就労現場に即した試験の 実施に関する検討・計画についての考えを 深める。	技能:(6),(7),(8) 態度:(3),(6),(8)
	19	企業に伝わる報告書作 成	矢島康江 AOTS東京研修センター グループ長補佐/日本語 コーディネーター	・日本語教育を専門としない企業や職場関 係者に、就労者の日本語学習状況や学習 の成果、継続学習のアドバイスとして何を 伝えるか、どうすれば伝わるかを理解する。 ・クライアントが理解できる報告ができる ようになるため、報告書サンプルをもとに 日本語教育の専門用語を非専門家にも理 解できる言い換え・書き換えの修正練習に 取り組む。	技能:(6),(7),(8) 態度:(3),(8)

2. 各研修の概要（研修カリキュラム）

日程	科目 No.	科目名	講師/所属等	学習内容・目標	「養成・研修報告」における「就 労者に対する日本語教師【初 任】に求められる資質・能力」
第7～9回 12/2(土) 12/9(土) 12/16(土)	20	技能人材向けの コースデザイン (導入)	澤田幸子 合同会社おおぞら日本語 サポート 副代表	・本研修の演習で就労者に対する日本語教育コース デザインを作成するために必要なニーズ及びレディ ネスの分析・検討、目標設定などの基礎知識や重点 課題、注意点を理解する。 ・本研修の各科目で学んだ知識及び技能をコースデ ザインに応用する意識を高める。	技能:(1),(2),(5),(7),(8) 態度:(1) ※その他の知識・技能・態度の資 質・能力も包括的に内包。
		技能人材向けの コースデザイン (演習)	澤田幸子 合同会社おおぞら日本語 サポート 副代表 小谷昌彦 合同会社おおぞら日本語 サポート 代表社員 澤田竜人 ECC国際外語専門学校 留学生事業部 副学科長兼教務課・進路課 責任者 高馬絢子 大阪観光大学別科 伊丹サテライト校 教務部長	・本研修の各科目で得られた基礎知識や指導法、教 材リソース等の内容を応用し、ある就労者を想定し たコースデザイン作成の活動を通して、実際に技能 人材への日本語教育内容や評価・フィードバック方 法、シラバス・カリキュラムデザインを検討する。 ・他の受講者との協働を通して多様な日本語教育観 に触れ、自身の日本語教育観や教育実践を内省し発 展させる。	
第10回 12/23(土)	21	研修の振り返り、 ネットワークづく り	杉山充 AOTS日本語教育センター センター長	・研修受講を通して得られた自身の学びを振り返り、 それを受講者間で共有することで学びを再構成す る。 ・今後、就労者に対する日本語教育に携わる上で、ど のような学びが必要かを考える。 ・研修受講後における就労者に対する日本語教師に 求められる資質・能力について自己評価を行う。 ・研修終了後も受講者間のネットワークを維持し、講 師間のつながりの中で学び続けることの重要性を 理解する。	

2. 各研修の概要

○受講者募集

AOTSウェブサイト内に本事業に関するホームページを作成し、募集にかかる募集要項、フライヤー、研修カリキュラム、日程時間割、受講申込フォーム等を公開した。<https://www.aots.jp/jp-learning/it-training/2023/>

募集方法は右記のとおり、複数ツールを通して日本語教育や教師研修に関連する機関・個人・団体等に行った。

6月上旬に募集を開始した結果、6月下旬に定員100名以上に到達した。その後、研修開始直前及び直後の辞退者が出て、受講者は計97名となった。

募集広報媒体	対象・媒体内容
メール	各自治体、国際交流協会、日本語教師会
	日本語教育関連機関・団体
	AOTS事業の関係先
	AOTS登録日本語講師
メールマガジン	日本語教育学会メルマガ
	AOTSメルマガ
オンライン広報	2023年日本語教育学会春季大会賛助会員ブース
	研修プログラム紹介のYouTube動画公開

文部科学省認定資格取得日本語教師プログラム卒業生就業支援事業に対する公募型選考（2023）印刷

文部科学省



受講者募集

2023年度AOTS提携プログラム

技能人材に教えた人のための 就労者に対する 日本語教師初任者研修

ゲンバのニーズに対応した実践的指導手法と
コースデザイン能力を身につける

3ヶ月コース
受講料
4,000円

オンライン
受講

ライブ配信は
土曜の午前

事前視聴
オンデマンド
動画あり



広報用フライヤー

プログラムの実施方法

研修プログラムは毎日3時間以下をも組み合わせて実施します。

オンデマンド 事前視聴	随時視聴あり	オンデマンドで 事前視聴あり	随時視聴あり
10月 18日 10:00～11:30	10月 18日 13:00～14:30	10月 18日 15:00～16:30	10月 18日 17:00～18:30

プログラムの概要

研修内容

- 研修内容① 研修内容② 研修内容③

研修内容

- 研修内容④ 研修内容⑤ 研修内容⑥

学習テーマ

研修内容① 研修内容②	研修内容③ 研修内容④	研修内容⑤ 研修内容⑥
研修内容① 研修内容② 研修内容① 研修内容②	研修内容③ 研修内容④ 研修内容③ 研修内容④	研修内容⑤ 研修内容⑥ 研修内容⑤ 研修内容⑥

受講者対象者・自己研修詳細

受講者対象者

研修内容① 研修内容②

自己研修詳細

研修内容③ 研修内容④

受講申込フォーム

<https://forms.office.com/GotUgDAWV>

お問い合わせ先

研修内容① 研修内容②

お問い合わせ先

研修内容③ 研修内容④

お問い合わせ先

研修内容⑤ 研修内容⑥

土曜日午前の研修

事前視聴動画 × オンラインライブ講義

全国どこからでも参加可能

同じ志の仲間

紹介ムービー動画

学会での広報

日本語教育事業のご紹介

研修

研修者に対する日本語教師【初任】研修」

3. AOTS登録日本語教師募集・AOTS職員募集

一般財団法人海外産業人材育成協会 (AOTS)

日本語教育センター

2023.4版

00:00 / 00:02

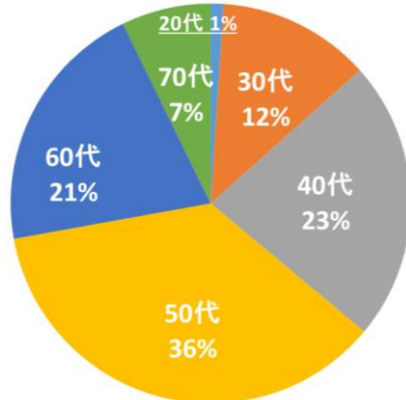
2023.4版

00:00 / 00:02

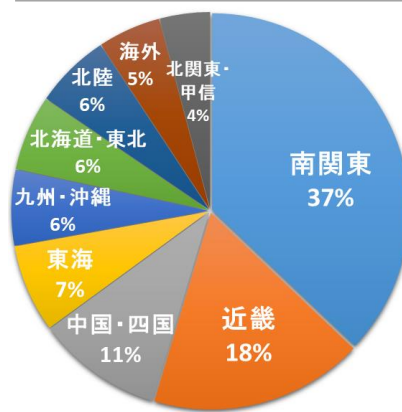
2. 各研修の概要

○受講者97名の属性

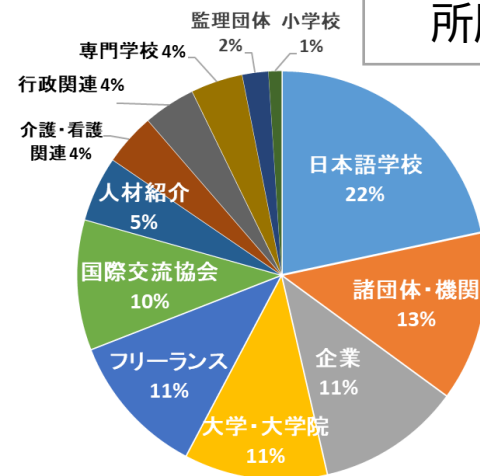
年代



居住地域

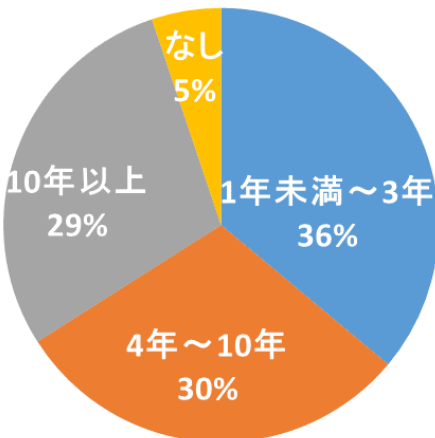


所属

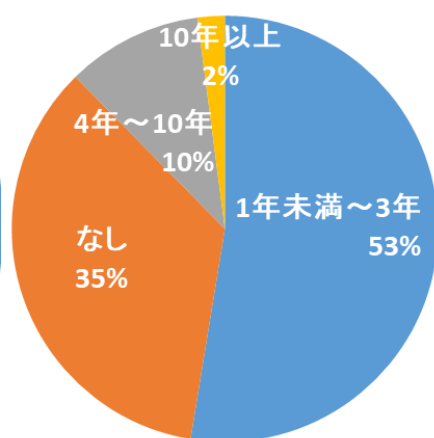


n=97

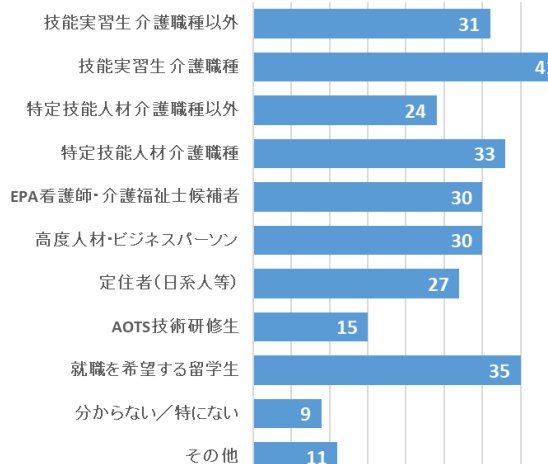
日本語教育歴



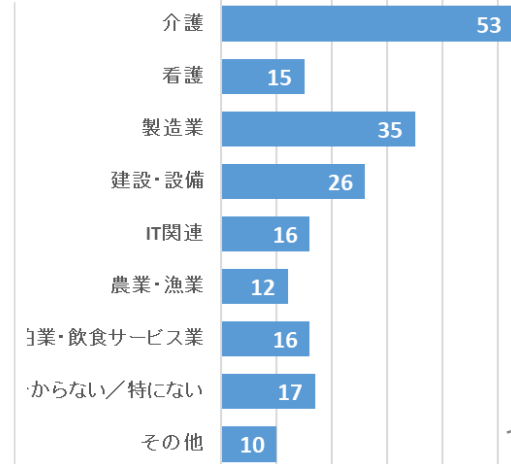
就労者に対する日本語教育歴



現在教えている(今後教えたい)就労者の属性



現在教えている(今後教えたい)「就労者に対する日本語教育」の分野・業種



2. 各研修の概要

○研修実施形態

全プログラムオンラインとし、同期型・非同期型を組合わせて実施した。

使用したICTツールと活用方法は下記のとおり。

使用ツール	受講者の活用方法	
同期型(ライブ配信)用 ウェブ会議ツール: Zoom	当日	同期型オンラインライブ講義の受講
	事前	事前動画視聴 講義資料ダウンロード
非同期型(オンデマンド)用 学習管理システム: ドコモgacco	事後	出席確認
		各科目の小テスト受験
		各科目の振り返りノート記述
		各科目の自己評価・アンケート対応
		当日録画視聴(復習・見逃し配信用)

※学習管理システムは複数業者を検討した結果、「ドコモgacco」を採用した。

2. 各研修の概要

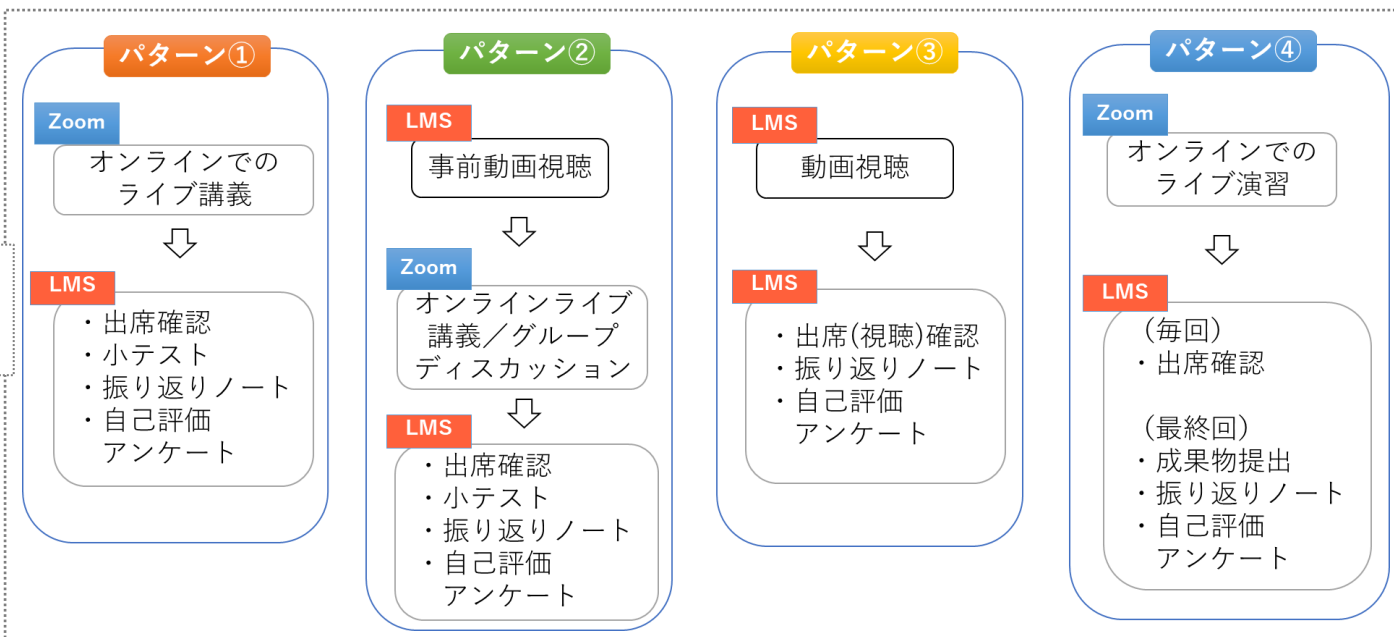
○学習管理システム(LMS)の活用詳細

★は完了/提出の有無が修了要件に関わるもの

各科目での活用	受講者の取り組み内容
・事前視聴オンデマンド動画	当日講義受講までに事前動画を視聴し、当該科目に関する知識を得る ★
・資料配付	事前動画、当日動画のスライド資料のデータをダウンロード
・出席確認	当日講義の出席ボタンを押す ★
・小テスト	各科目に関する正誤問題・多肢選択式の小テストを受験 ★
・振り返りノート	各科目受講後に気づきや学びを自由に記述し、ポートフォリオとして各自保管 ★
・自己評価/アンケート	各科目のCando自己評価及びアンケートへの回答 ★
・当日講義録画	当日講義欠席者は、見逃し配信用の当日講義録画を視聴
・当日講義Q&A補足	当日講義にて時間の都合上、対応できなかった質問への回答を後日確認する
・受講者間ディスカッション	講義や演習に関する受講者間の意見交換のためのフリースペース
プログラム全体に関して	事務局からの発信内容
・お知らせ	事前視聴動画のアップロード連絡など、受講者全体に対する連絡
・時間割表	研修プログラムの全体日程及び時間割表
・お問い合わせ方法	研修に関するお問い合わせのための連絡先掲載
・動画視聴状況	受講者が各自の動画視聴状況を確認
・受講状況	受講者が出席や提出物など、各自の受講状況を確認

各科目の同期型・非同期型の組み合わせパターン

パターン適用の日程



パターン①

10月7日

1限	2限
9:00-9:45	9:55-10:40

パターン②

3限	4限
10:50-11:35	11:45-12:30

11月4日

パターン④

12月2日

1限	2限	3限	4限
9:00-9:45	9:55-10:40	10:50-11:35	11:45-12:30

10月14日

		3限	4限
		10:50-11:35	11:45-12:30

11月11日

1限	2限	3限	4限
9:00-9:45	9:55-10:40	10:50-11:35	11:45-12:30

12月9日

1限	2限	3限	4限
9:00-9:45	9:55-10:40	10:50-11:35	11:45-12:30

10月21日

1限	2限		
9:00-9:45	9:55-10:40		

11月18日

1限	2限	3限	4限
9:00-9:45	9:55-10:40	10:50-11:35	11:45-12:30

12月16日

1限	2限	3限	4限
9:00-9:45	9:55-10:40	10:50-11:35	11:45-12:30

10月28日

1限	2限		
9:00-9:45	9:55-10:40		

11月25日

12月23日

1限	2限	3限	4限
9:00-9:45	9:55-10:40	10:50-11:35	11:45-12:30

パターン③



:このアイコンは事前動画あり

2. 各研修の概要（研修プログラム日程・時間割）

1限：9:00-9:45			2限：9:55-10:40			3限：10:50-11:35			4限：11:45-12:30		
10/7 (土)	事前課題	なし				事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 		
	同期時間	オンライン授業				同期時間	受講者間ディスカッション	同期時間	オンライン講義		
	オリエンテーション 科目1 就労者に対する日本語教育概論 杉山充						科目2 外国人受け入れ政策と日本語教師 神吉宇一		科目3 外国人就労者に関わる制度 折茂純哉		
10/14 (土)	プログラムなし						事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	
							同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義	
							科目4 職種・職位によって求められる日本語教育 ー制度における日本語能力要件ー 杉山充		科目5 就労現場における異文化受容・異文化適応 近藤彩		
10/21 (土)	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 			
	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義	同期時間	なし ※動画視聴のみ	同期時間	なし ※動画視聴のみ			
	科目6 技能実習・特定技能のための仕事・生活の日本語教育ー教材『あたらしいじっせんにほんご』を例にー 新野佳子		科目7 生活・就労者の日本語教育 ー地域日本語教室で学ぶ技能人材ー 萬浪絵理		科目8-1 現場の企業担当者の声を聞く 外国人就労者(技能実習生)の声を聞く ミドリ久慈衣料株式会社		科目8-2 現場の企業担当者の声を聞く 外国人就労者(技能実習生)の声を聞く 五島工業株式会社				
10/28 (土)	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 			
	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義	同期時間	なし ※動画視聴のみ	同期時間	なし ※動画視聴のみ			
	科目9 【事例研究】外国人介護人材の就労と日本語教育 白井孝子		科目10 【事例研究】介護人材向けの専門日本語教育 ー介護の就労者向けウェブ教材「にほんごをまなぼう」を例にー 小林亨		科目11-1 現場の介護施設担当者の声を聞く 外国人介護人材の声を聞く 健祥会グループ		科目11-2 現場の介護施設担当者の声を聞く 外国人介護人材の声を聞く 社会福祉法人旭福祉会 特別養護老人ホーム やすらぎ園				
11/4 (土)	プログラムなし										
11/11 (土)	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 			
	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義			
	科目12 職種別の日本語の指導法 ーウェブ教材/アプリ「げんばのにほんご」(外国人技能実習機構)を例にー 飯塚知子		科目13 技能人材と語彙学習 ーどんな言葉の学習が必要か考えるー 飯塚知子		科目14 就労現場でのコミュニケーション能力を高めるための指導法ー教材『ゲンバの日本語』を例にー 内海 陽子		科目15 技能人材と会話学習 ーコミュニケーションストラテジーが学べる会話を考えるー 飯塚知子				

2. 各研修の概要（研修プログラム日程・時間割）

	1限：9:00-9:45		2限：9:55-10:40		3限：10:50-11:35		4限：11:45-12:30	
11/18 (土)	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 	事前課題	動画視聴 45分程度 
	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義	同期時間	オンライン講義
	科目16 コミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法 -AOTSでの技術研修生向け日本語研修をモデルにして- 矢島 康江		科目17 就労者に対する自律学習支援とスローラーナーへの対応 -AOTSでの技術研修生やEPA候補者への実践を事例にして- 常次 亨介		科目18 就労者の日本語学習に対する評価 一行動能力目標とパフォーマンス評価- 内海 陽子		科目19 企業に伝わる報告書作成 矢島 康江	
11/25 (土)	プログラムなし							
12/2 (土)	事前課題	別途指示あり			事前課題	別途指示あり		
	同期時間	オンライン講義			同期時間	オンライン演習		
	科目20-1(講義形式) 技能人材向けのコースデザイン(導入) 澤田幸子			科目20-2(演習) 技能人材向けのコースデザイン 澤田幸子、小谷昌彦、澤田竜人、高馬絢子				
	澤田幸子(9:00-12:30)			小谷昌彦、澤田竜人、高馬絢子(10:50-12:30)				
12/9 (土)	事前課題	演習の進行状況により別途指示あり			事前課題	演習の進行状況により別途指示あり		
	同期時間	オンライン演習			同期時間	オンライン演習		
	科目20-2(演習) 技能人材向けのコースデザイン			科目20-3(演習) 技能人材向けのコースデザイン				
	澤田幸子、小谷昌彦、澤田竜人、高馬絢子(9:00-12:30)							
12/16 (土)	事前課題	演習の進行状況により別途指示あり			事前課題	演習の進行状況により別途指示あり		
	同期時間	オンライン演習			同期時間	オンライン演習		
	科目20-3(演習) 技能人材向けのコースデザイン			科目20-4(演習) 技能人材向けのコースデザイン				
	澤田幸子、小谷昌彦、澤田竜人、高馬絢子(9:00-12:30)							
12/23 (土)	事前課題	演習の進行状況により別途指示あり			事前課題	別途指示あり		
	同期時間	オンライン演習(9:00-10:40)			同期時間	オンライン講義		
	科目20-4(演習) 技能人材向けのコースデザイン(発表) 澤田幸子、小谷昌彦、澤田竜人、高馬絢子			科目21 研修の振り返り、ネットワークづくり 杉山 充				

19

2. 各研修の概要

○コースデザイン演習について

演習の全体の流れ(導入⇒グループ活動⇒発表)

- 12/2 (土) 9:00-10:40 コースデザイン導入(指定テキスト準備)
- 10:50-12:30 コースデザイン演習(各クラス・グループに分かれて活動)
- 12/9 (土) 9:00-12:30 コースデザイン演習(各クラス・グループに分かれて活動)
- 12/16(土) 9:00-12:30 コースデザイン演習(各クラス・グループに分かれて活動)
- 12/23(土) 9:00-10:40 コースデザイン発表(各クラスでのグループごとの発表)

クラス・グループ

クラス :A, B, C, Dクラス(計4クラス(25名/クラス))※各クラス1名の担当講師配置
グループ:各5グループ5名で編成 ※端数や受講離脱により人数減のグループあり

演習課題

事前に提示された5つの「技能人材に対する日本語研修ケース」からコースデザイン作成の対象とするケースをグループで1つ決める。
そのケースに基づき、グループメンバーとのディスカッションを通してグループ共通のコースデザインを作成。
グループで作成したコースデザインを12/23の1,2限で各クラス内(25名)で発表。
最後にグループで作成したコースデザインの最終版を成果物として提出。
※各クラスから優良コースデザインを選定し、AOTSのウェブサイト公開。<https://www.aots.jp/jp-learning/jt-training/2023/>

2. 各研修の概要

○研修の様子(講義、全体質疑、グループディスカッション、発表)

講義の様子

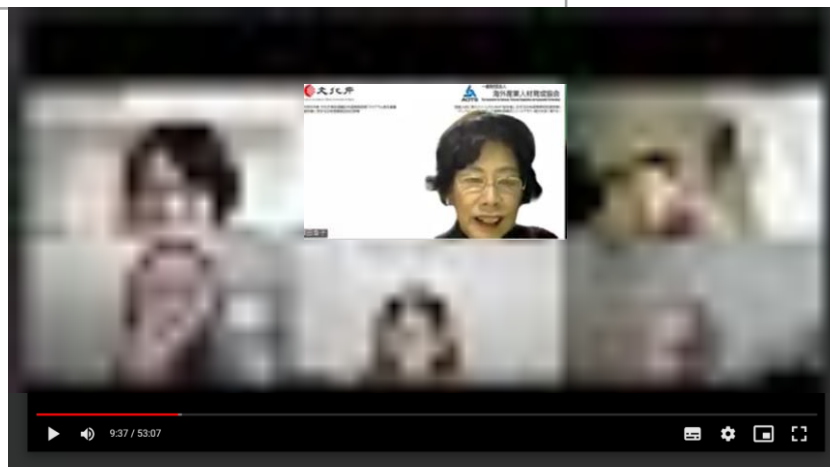
日本語教育で対象になりやすい就労者

ビジネスパーソン (ビジネスマン)	外国人材 幅広い 中立的な印象 似たようなことば (私の解釈です) 外国人就労者 … 外国人材と同じ。 生活・留学・児童生徒との対比概念。 外国人労働者 … 以前はよく使ったが頻度低下気味か。 高度人材を想起しにくい。 グローバル人材 … 日本人も含む概念。 企業のグローバル化の推進役。 外国人社員 … 企業の会社員を想定。 技能実習生や介護人材はあまり想定されない。
高度人材 (高度外国人材)	
定住外国人 (定住者/日系人)	
技能実習生	
特定技能	
介護人材 (EPA、技能実習、特定技能)	
技術研修生	

全体での質疑応答の様子



グループディスカッションの様子



演習でのコースデザイン発表の様子

B-2 コースデザイン作成のフォー...

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 ツール ヘルプ

100% 標準デキ...

2) 学習者のニーズ・研修依頼者のニーズ

2. シラバスデザイン

3) 授業時間数	136時間 (時間数: 1日8時間×17日=136時間)
4) コースの方針	技能実習生が技能実習を円滑に行うため、日本の社会・労働環境に適応するための基礎的な日本語を習得する。繰り返しの学習を行うことで、確実に習得できるようにする。コミュニケーションストラテジーが身につくようにグループワークやロールプレイなど多様なことで、アウトプットを増やす。今後の自律学習につなげるために「つながる」を活用する。
5)到達目標	・聞くこと A2.2: ゆっくりと話されれば、日々の業務で行う決まった手続きや手順 (日課、ルーティン) の語句や表現を理解することができる。 ・話すこと (やりとり) A2.1: 職場内で、仕事上の簡単な情報交換で済む日常の話題ならば、コミュニケーションをとることができる (非常に短い社交的なやりとりには対応できるが、自分から率先して会話を進めら

2. 各研修の概要

○研修前・中・後のフォローアップ体制

研修プログラム期間中及びその前後の受講者に対するフォローアップ内容については以下のとおり対応した。

	対応	詳細
研修前	・受講案内	研修日程、カリキュラム、修了要件、指定教材、受講形態、SNSグループ招待等々をPDFにまとめ一斉送信メール連絡及び個別連絡対応
	・学習管理システム(LMS)利用案内	LMS利用開始にあたっての案内文書を一斉送信メール発信及び個別連絡対応
	・LMSの研修開始前の利用	受講者のLMS利用を研修開始の約1ヶ月前に開始し、研修の予習やLMS利用適応時期を設けた
研修中	・メール連絡	以下を随時連絡 ・事前動画、当日録画アップロード、Q&Aのテキスト公開 ・事前課題の内容まとめ配付 ・動画視聴、課題提出のリマインド
	・講義前後における口頭での事務連絡	メール連絡した内容を講義前後の合間時間に口頭で連絡・説明及び質疑応答
研修後	・LMSの研修終了後の利用	受講者のLMS利用を研修終了後も1ヶ月間は可能とし、研修の振り返りや復習の期間を設けた

2. 各研修の概要

○受講者間ネットワーキング

受講者間の自由な意見交換

○ Padlet

その他、講義内の各グループ内ディスカッション内容は、「Padlet」にて全体共有した。

○ LMS gaccoの「ディスカッション」機能

・本研修プログラムの各科目に直接関係する内容について投稿する。

○ Facebookグループでの投稿

・本研修プログラムの各科目に間接的に関係する内容や、事務局が立てたトピックやシェアした内容に関して投稿する。



2. 各研修の概要

○研修プログラム 受講者に対する評価

研修プログラム 評価						
		評価内容		評価方法	詳細	修了要件
研修プログラムに関する理解度・習熟度	参加	1	出席率	出欠確認	動画視聴＆講義当日のオンライン出席	全体の2/3以上の出席率
	各科目	2	各科目の理解度	小テスト	正誤・多肢選択式問題で講義内容の理解度を確認	全科目の受験及び正答確認
		3	各科目の理解度	各科目のCando チェックシート	各科目内容の重点ポイントについてどれくらいできるかをCando自己評価	全科目の自己評価及びアンケート回答
				振り返りノート	各科目の振り返りや内省ツールとして感想や疑問を記述し、それを各自ポートフォリオとして活用	全科目の振り返りノートの提出
		4	各科目の応用力	演習での成果物	各グループで作成したコースデザインを提出	グループ共通の成果物を提出
	プログラム全体	5	「資質・能力」の習得度	事前・事後自己評価	「養成研修・報告」の「求められる資質・能力」をCando自己評価でチェック	事前・事後による自己評価を提出
事業満足度		6	事業全般に関する満足度	カリキュラム事後評価アンケート	各科目の内容、難易度、時間、期間、受講形態等の研修全体に関する満足度について	研修終了時に回答提出

○研修プログラム 受講者の習熟度

各科目のCan-do自己評価①②と各科目満足度の五段階評価を5点満点で数値化した。本研修の目標到達度の評価点は該当科目及び各評価点の全体平均値とし、①～⑤いずれの目標も4以上の結果となり、一定以上の研修効果を確認することができた。

科目	自己評価①	自己評価②	各科目満足度	到達目標	目標到達度
就労者に対する日本語教育概論	4.28	3.96	4.61	①技能人材を取り巻く制度や社会の実情、産業界のニーズを理解することができる。	4.19
外国人受け入れ政策と日本語教師	4.30	3.87	4.55		
外国人就労者に関わる制度	4.01	3.97	4.52		
職種・職位によって求められる日本語教育	3.84	3.92	4.57		
【事例研究】外国人介護人材の就労と日本語教育	3.98	3.96	4.51		
就労現場における異文化受容・異文化適応	4.10	4.04	4.47	②職場で生じる言語・文化的な問題を理解し、技能人材や企業に寄り添うことができる。	4.24
現場の企業担当者・外国人就労者の声を聞く①	4.02	3.89	4.38		
現場の企業担当者・外国人就労者の声を聞く②	4.16	4.06	4.60		
現場の介護施設担当者・外国人介護人材の声を聞く①	4.19	4.21	4.65		
現場の介護施設担当者・外国人介護人材の声を聞く②	4.18	4.11	4.52		
技能実習・特定技能のための仕事・生活の日本語教育	4.13	4.07	4.36	③業務遂行のための日本語教育を実践するために必要な情報を自ら収集し、それを活用できる。	4.06
生活・就労者の日本語教育	4.15	4.16	4.51		
【事例研究】介護人材向けの専門日本語教育	3.99	3.93	4.19		
職種別の日本語の指導法	4.01	3.82	4.24		
技能人材と語彙学習	3.61	3.41	4.12		
就労現場でのコミュニケーション能力を高めるための指導法	4.04	4.00	4.41		
技能人材と会話学習	3.89	3.79	4.36		
コミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法	3.99	3.99	4.26	④技能人材や企業のニーズに応じたコースデザインを行うことができる。	4.32
技能人材向けのコースデザイン：演習①～④	3.99	4.27	4.55		
研修の振り返り、ネットワークづくり	4.45	4.40	4.23	⑤技能人材や企業に対して日本語教育の必要性や学習成果等をわかりやすく伝えることができる。	4.03
就労者に対する自律学習支援とスローラーナーへの対応	4.09	4.01	4.37		
就労者の日本語学習に対する評価	3.68	3.63	4.11		
企業に伝わる報告書作成	3.98	3.98	4.45		
平均	4.05	3.98	4.41		4.17

2. 各研修の概要

○研修プログラム 受講者による定性コメント(記述内容一部抜粋)

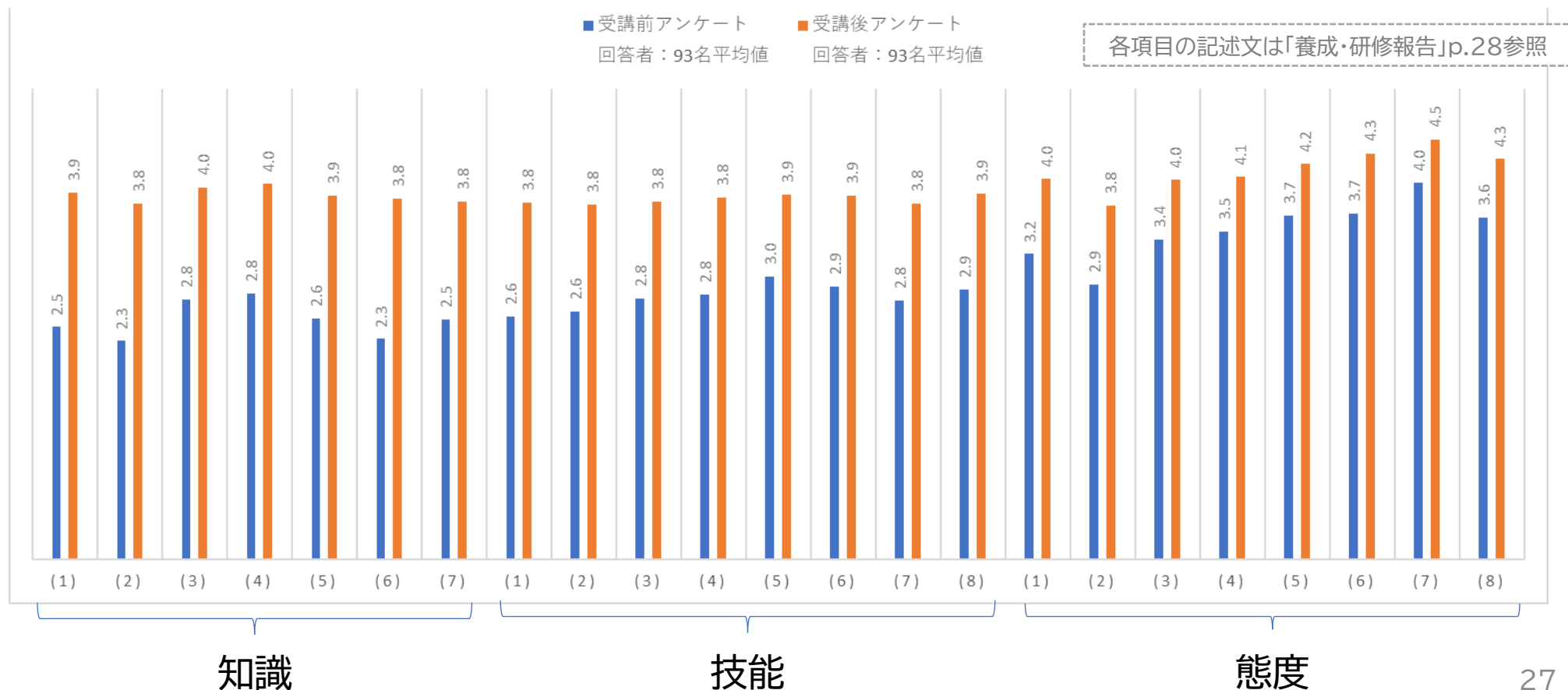
得られた学び	
受講者間の学び	・コースデザインやカリキュラムをグループの仲間と作り上げる過程で自分の経験や知識の整理ができた。 ・対話を通じて創造的な学びを深める経験はこれまで少なかったため、大変貴重な学びとなった。
情報・教材・教授法	・自分一人では思いつかない教育内容やより良い学習を提供するためのツールや内容を得られたり、新しいアイデアや気づきがあった。 ・デジタルツールの使い方、活用方法を学んで、自律学習のツールとしたり、評価把握や集計に役立てたい。
コースデザイン	・限られた学習時間の中で、ニーズにあった成果を出すこと、そのためにコースデザインの一貫性が大切であることが学べた。 ・最も大きな学びは、毎週教えて頂いた様々なテーマを総合的に踏まえた上で、コースデザインするということ。 ・この研修で就労者に対する日本語教育の現状及びコースデザイン作成を体験し、日本語教師として次のステップに向かう道筋が見えた。
就労者日本語教育の多様性	・自分がやりやすい方法やこれまでの経験から決めつけてはいけなく、もっと広い視野で様々な情報に触れていこうと思う。 ・日本語教師の社会での役割について深く考えなければならぬと思い始めたこと。日本語教師の指導場所はいろいろあることを実感できた。
企業等との連携	・企業と学習者自身のニーズにあったカリキュラムデザインをしっかりと考えなければならぬことを学べた。 ・企業への提案力や報告義務についてよく理解できた。BtoBについても考えながら教育をしなければならないのは目からうろこな視点だった。

今後の課題	
経験・自信	・就労者指導経験がないので、一番不足しているものは経験だと思う。近い将来的に日本語学校を並行して、就労者への指導をしてみようと思う。 ・同じ日本語教師の立場の同僚がいない中で独りでやっているの、自分のやり方が正しいのか間違っているのかの見極めをする力がまだ不足。
コースデザイン	・今回の研修で、コースデザインの作成や評価の仕方について、ある程度理解が深まったが、まだ実践が乏しいので少々自信がないところがある。 ・到達目標、シラバスについての知識がまだ少ないので、今回学んだ内容や参考情報を振り返り、今後のコースデザインに生かしたい。
企業との交渉や連携	・企業との交渉力や提案力がまだまだ足りないと思う。自分を売り込む能力やクライアントの要望に沿う提案力をつけていかなければと感じた。 ・対話能力、調整能力、ニーズにあった授業設計等、OJTで日々の仕事を積み重ね、研修で学んだことを実際の授業に生かせるよう考えていきたい。
ネットワーキング、他者との連携	・自治体や企業、地域日本語教室や日本語教育に関わりたいと思っている人などへの働きかけ・発信力・連携力と、同業者との生きた連携力。まずはFacebookアカウントを再開して今回同じグループになった方々と継続した情報交換や親睦を深めたい。そして情報収集や自己研鑽を続けたい。
制度的な知識・理解	・外国人材の就労制度がまだまだ整理して理解できていないので、法整備の勉強は必要だと思う。 ・日本での労働に関する制度や事務手続きの知識等、この知識が仕事で必要になったときに、逃げずに情報を取りに行きたい。
学習者対応	・「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」「生活Cando一覧」等の公開されているものを活用する力。もっと勉強したい。 ・学習者の学習促進のために必要なICTをもう少し使えるように勉強しようと思う。

2. 各研修の概要

○「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」に関する研修プログラム受講前・受講後における自己評価の比較

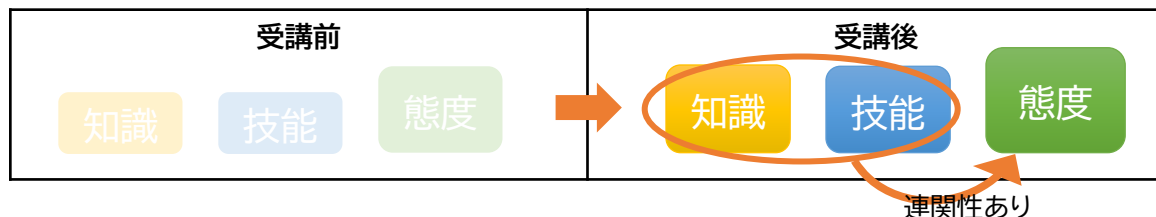
研修受講者に対して、研修受講前と受講後に「資質・能力」の自己評価アンケートを実施した。その結果、知識・技能・態度いずれの項目においても修了者の全体平均値は、受講前よりも受講後に向上した結果となった。



2. 各研修の概要

○「養成・研修報告」における「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」における「態度」の形成プロセスについて ※本スライド内容は、2024年度日本語教育学会春季大会にて発表予定

・前項スライドのとおり、各項目の受講前平均値は、「知識」「技能」と比較して「態度」の数値がより高い結果となった。本研修を通じた「態度」の形成プロセスは、以下のように考えられる。



各科目受講による「知識」・「技能」の習得を通して、漠然と高かった「態度」がより明確化し高まった。

・以下は、各能力記述文について類似性の高いもの同士をカテゴリー分けし、そのカテゴリーを軸に横並びに再整理したリストを作成し、態度の形成プロセスを知識・技能との連関性も含めて捉えた。

カテゴリー分け項目	知識		技能			態度		受講者のコメント(一部抜粋)
社会状況や政策・制度の基礎知識	(1)						(7)	・日本語を教えることに一生懸命になっていましたが、研修を通して、日本語教育を取り巻く環境や学ぶ側の社会的な変化に敏感になることが必要だと感じ、アンテナを張るようになりました。 ・今後も日本語教育に関わるニュースについて日々関心を持って知ろうとする事は大切だと再認識した。 ・社会の動向、異文化理解など、学び続けていくことに覚悟をもてた。
職場における文化摩擦・異文化適応	(4)		(4)					
企業・職場関係者との関係構築や連携				(6)		(3)	(8)	・日本人側がどのように対応を行っていくべきか、どうしたら日本人側の意識・認識を変えていくことができるかを考えるようになった。
職場での日本語コミュニケーション	(3)	(5)			(7) (8)			
就労者に対する日本語教育の実践的な対応力		(6)	(1)	(5)		(1)	(6)	・自律学習支援の重要性に気づくことができた。これまでは1回1回の授業の内容ばかりにフォーカスして、自律学習支援にまでは気が回っていなかったが、今後は意識して授業をしていきたいと思えた。
自律学習支援		(7)	(3)				(4)	
キャリア支援と自己実現	(2)		(2)			(2)	(5)	・現職の学校での学生に対する支援についても、彼らの今後について、授業の中で、キャリア支援につながるような、より、近づいた支援を考えたいと思います。

2. 各研修の概要

○「就労者に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」の習熟度に関する評価・判定・フィードバック:

(1)「求められる資質・能力」に対する受講前・受講後の自己評価結果を比較し、受講者各自が自身の学びや成長を振り返る機会を設けた。

(2)本研修で学んだ内容を活用して作成したコースデザイン成果物に対し、担当講師からのコメント評価を行うことを通して、研修全体のフィードバックとした。

(3)研修プログラム最終科目の「研修の振り返り」において、受講者自身の学びや気づきを振り返り、グループで話し合う時間を設けた。また、上記の内容に加え、自身の不足している資質や能力を当日の振り返りノートに記述する課題を設定し、受講を通して得られた学びや今後の課題を明確化する取り組みを行った。※スライド26参照

(4)本研修を通して、受講者自身の日本語教育観や日本語教育への関わり方、就労外国人に対する捉え方など、日本語教師・日本語教育人材としての意識の変容について内省するための記述機会を設けた。その結果、9割の受講者が本研修プログラムの受講を通じて意識の変容があったと回答している。記述内容は下記参照。

「意識の変容について」(全体記述内容をカテゴリー分け):

①日本語教師の役割・専門性の捉え方、②就労者の多様性の認識、③就労者に対する日本語教育への関わり方、④日本語教育に対する視野の広がり、⑤日本語教育実践の捉え方の変化、⑥他教師や企業等との連携の必要性の認識、⑦継続的な学びの必要性、⑧政策・制度・社会状況の理解の必要性

「意識の変容について」(受講者による定性コメント一部抜粋):

- ・様々な業種や制度を通じて日本国内で就労している外国人の多様性に改めて気づかされた。
- ・これまでは授業を担当している課だけにフォーカスしていたが、本プログラムでカリキュラム作成の経験をしたことで、コースの全体像を見るようになった。
- ・単なる語学学習のための日本語教師のままでは現場のニーズに対応しておらず、今後は何かしらの専門分野に特化する、包括的な支援を含めた日本語教育ができるようになる、など今後の方向性について考えるようになった。
- ・今後、就労者に対する日本語授業を担当することがあれば、何も考えずにただ授業で教えるのではなく、学習者や受入れ機関などのニーズなども考えながら、疑問を持ちつつ授業計画していきたい。
- ・現職の現場以外についても知る事ができ、より広い視野で日本語教育を捉える事ができた。

2. 各研修の概要（その他 関連する取組）

○持続可能な研修プログラム実施のための取組

研修を持続させるための基盤整備	
・配信用動画作成と学習管理システムの活用	オンデマンド配信用動画を作成し、研修の一部を非同期型研修にすることで、受講者の拘束時間の削減を図った。また、学習管理システム(LMS)を活用して、オンデマンド配信用動画を含めた非同期時の受講管理を行う研修基盤を構築した。 ⇒LMSを活用することで受講者の学習へのキャッチアップが可能となり、全体の出席率や修了率の向上につながった。
・ネットワーク構築のためのSNS	本研修プログラム用のFacebookグループを立ち上げ、研修期間中に受講者・講師・事務局が交流できる場を設けた。また、研修終了後も運用を継続し、ネットワーク維持・拡大を図る。 ⇒6割以上の受講者が同Facebookグループに参加し、受講者間ネットワークを構築した。
・研修プログラム運営マニュアル	持続可能な形で研修プログラムを継続・普及できるよう、運営実施マニュアルを作成した。また、他機関での自主的な教師研修の普及・促進のための参考用として、同マニュアルをAOTSウェブサイトにて公開した。
研修成果の普及	
・一部科目の一般公開	AOTSウェブサイトにて研修プログラムの一科目「技能人材と会話学習ーコミュニケーションストラテジーが学べる会話を考えるー」の事前視聴動画及び当日録画を無料公開し、本研修への潜在的な受講希望者の拡充を図った。 ⇒上記の公開と併せて「AOTS教師研修に関するお知らせ受取希望登録フォーム」を展開した結果、登録者数が48名に上り(2024年2月29日時点)、教師研修に関心の高い潜在的な受講希望者にリーチできた。
・成果物の公開	演習における各クラスの優良コースデザイン成果物をAOTSウェブサイトで公開し、研修プログラムの活動内容や様子が一般閲覧者も見られるようにし、コンテンツの活用や事業の普及を図った。

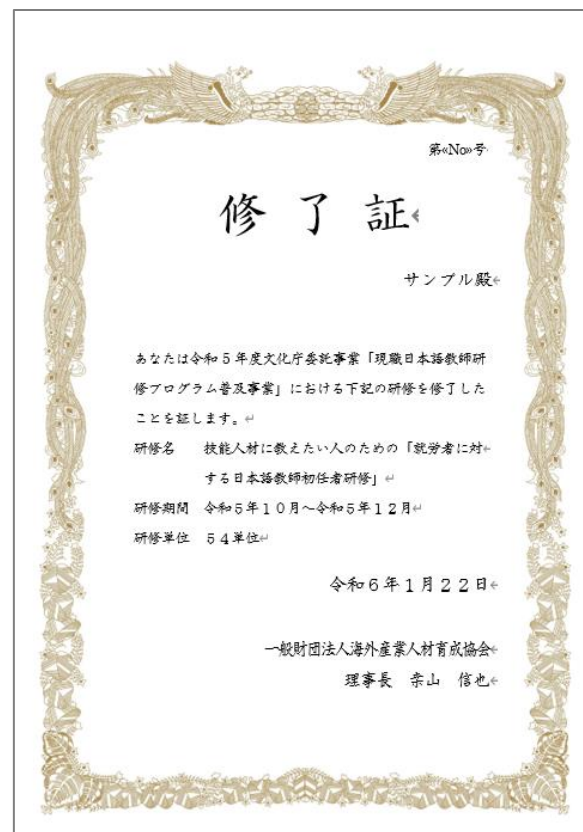
2. 各研修の概要

○修了者について

研修プログラムの申込・受講・修了者の各人数は以下のとおり。

2023年	申込	不参加・ 辞退	受講者	修了者	未修了者
6月	106名	-	-	-	-
7月	6名	-	-	-	-
8月	1名	-	-	-	-
9月	1名	1名	-	-	-
10月	-	2名	97名	-	-
11月	-	-	↓	-	-
12月	-	-		-	-
計	114名	3名	97名	93名	4名

6月上旬に募集開始し、同月下旬に定員100名以上に到達。その後、研修開始直前及び直後の辞退者が出て、受講者は計97名となった。同97名のうち、研修終了時に修了要件を満たした者は93名となり、右の修了証を発行した。



2. 各研修の概要

○修了者進路アンケート「今後の就労者に対する日本語教育についての関わり方」（修了時点）

(1) 就労者に対する日本語教育への関わり方について n=93			(単位:人/複数回答可)
①	以前から関わっており、これからも関わる予定。	53%	○日本語教育内容 技能実習生 介護職種以外(18) 技能実習生 介護職種(18) 特定技能人材 介護職種以外(6) 特定技能人材 介護職種(13) EPA看護師・介護福祉士候補者(10) 高度人材・ビジネスパーソン(18) 定住者(日系人等)(9) AOTS技術研修生(4) 就職を希望する留学生(14) その他(2)
②	関わっていなかったが、研修参加中または研修参加後に関わるようになった。あるいは関わることに決まっている。	3%	
③	関わっていなかった。これからは関わりたいが、未定。	41%	
④	以前から関わっていない。これからは関わりたくない。	0%	
⑤	その他*	3%	

(2) 就労者に対する日本語教育への関わり方について(地域別回答結果/単位:人) n=93		
①	以前から関わっており、これからも関わる予定。(53%)	北海道・東北(2)、北関東・甲信(1)、南関東(19)、北陸(3)、東海(2)、近畿(13)、中国・四国(6)、九州・沖縄(2)、海外(1)
②	関わっていなかったが、研修参加中または研修参加後に関わるようになった。あるいは関わることに決まっている。(3%)	北海道・東北(1)、九州・沖縄(1)、海外(1)
③	関わっていなかった。これからは関わりたいが、未定。(41%)	北海道・東北(3)、北関東・甲信(3)、南関東(12)、北陸(3)、東海(5)、近畿(4)、中国・四国(2)、九州・沖縄(4)、海外(2)
⑤	その他	南関東(2)、海外(1)

○日本語教育内容(希望)
技能実習生 介護職種以外(7)
技能実習生 介護職種(19)
特定技能人材 介護職種以外(10)
特定技能人材 介護職種(19)
EPA看護師・介護福祉士候補者(18)
高度人材・ビジネスパーソン(14)
定住者(日系人等)(22)
AOTS技術研修生(6)
就職を希望する留学生(18)
分からない/特になし(4)
その他(2)

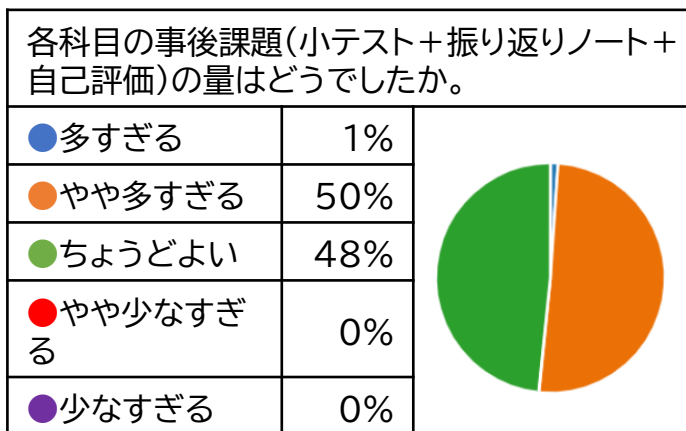
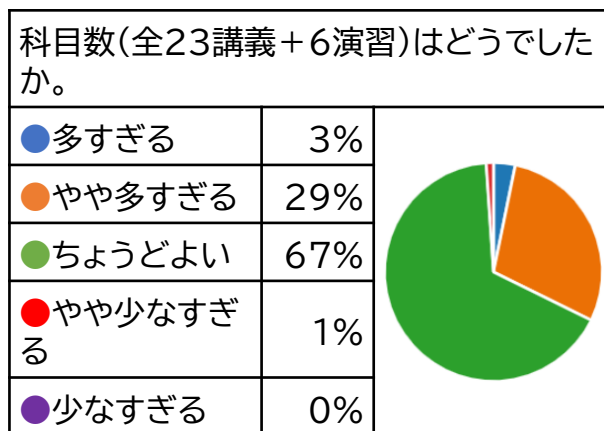
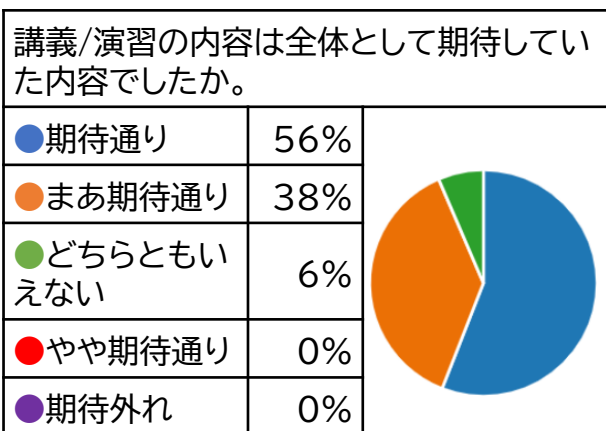
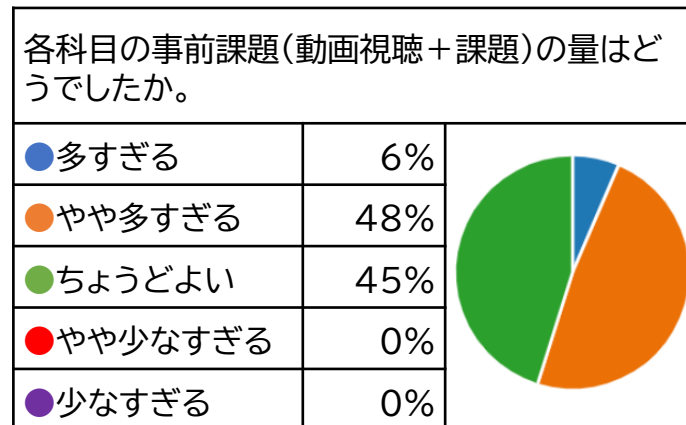
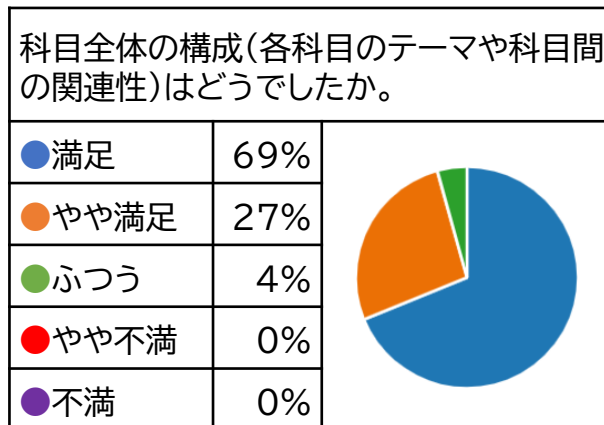
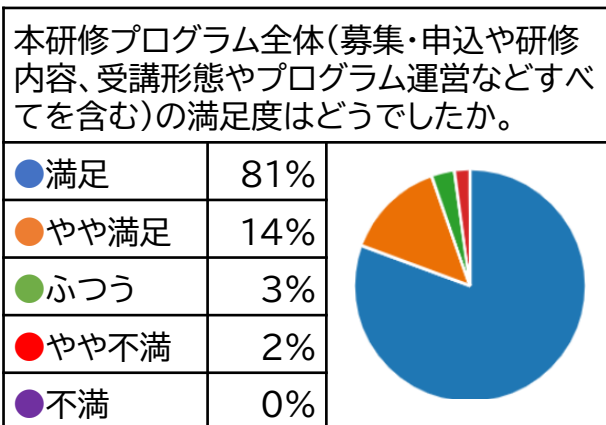
*⑤「その他」に関する記述内容:

- ・私自身は、就労者に対する日本語教育に携わったことはないのですが、タイにおける来日就労の学習者に関わる教師の教師研修をしています。
- ・以前就労者に対する日本語教育に関わっていたが、現在は関わっていない。研修を通じて、今後も機会があれば日本語教育に関わっていきたいと考えている。
- ・以前短期間ではあるが就労者の日本語教育に携わった。現在は中学生対象の日本語教師に携わっているが、機会があればまた関わりを持ちたい。

3. 受講生からの評価

○プログラム全体に関するアンケート結果

研修プログラム終了時に受講者への研修全体に関するアンケートを実施した。回答結果は以下のとおり。 n=93



事務局による補足コメント:

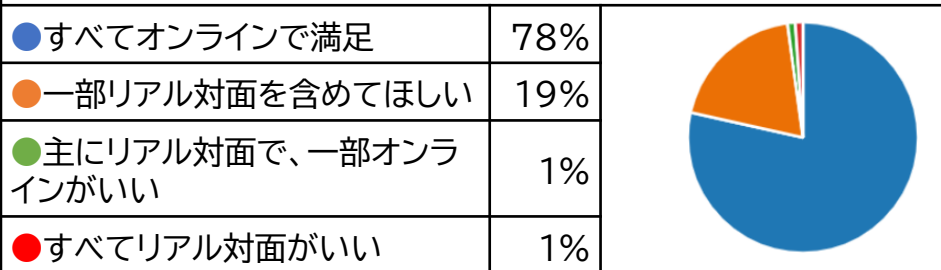
・本研修プログラムの全体構成及び内容に関しては受講者からの高い満足度評価が得られた。その一方で、科目数や課題量は「やや多すぎる」という回答の割合が比較的高い結果となった。

3. 受講生からの評価

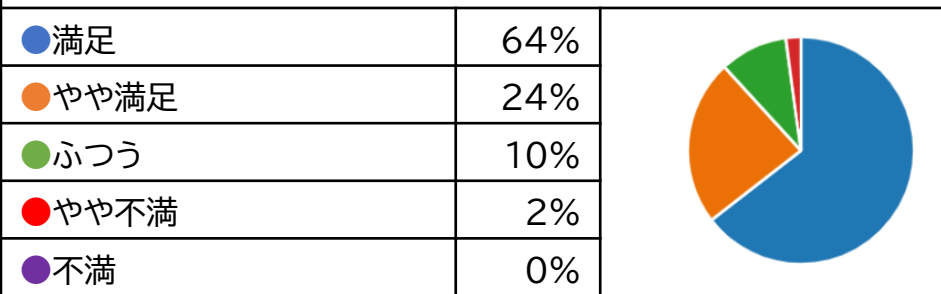
○プログラム全体に関するアンケート結果

n=93

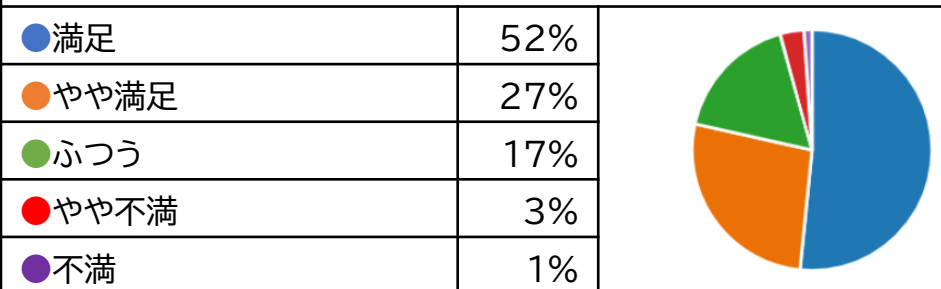
全プログラムLMSとZoomのオンライン研修(リアル対面なし)の実施形態はどうでしたか。



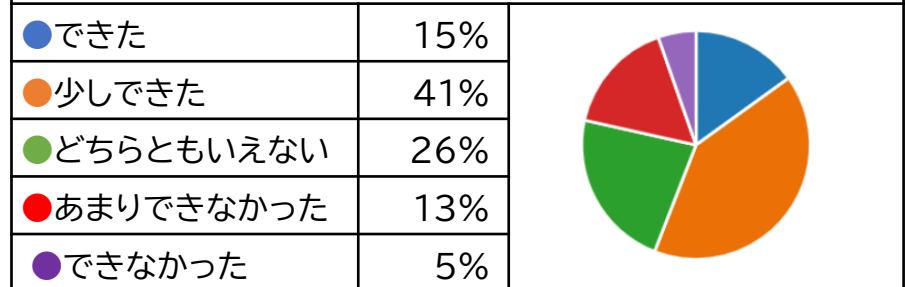
「事前動画＋ライブ講義＋事後課題」の組み合わせはどうでしたか。



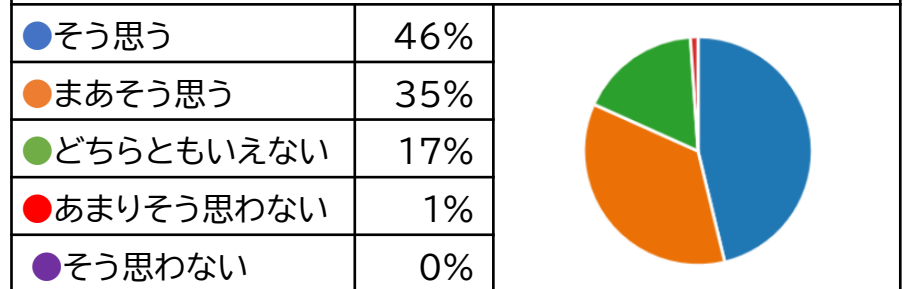
オンラインのためのITツール(Zoo, gacco, Padlet, Googleドライブ)はどうでしたか。



本研修プログラムを通して受講者間のネットワークづくりができましたか。



本研修プログラム後もFacebookグループを通してAOTS事務局・講師・受講者とのネットワークを維持したいですか。



オンライン研修に関する外部評価委員からのコメント：

・今回の研修は同期型以外にLMSでの非同期型など、色々な受講形態を交えて工夫した組み合わせをしている。そういった中で、居住地も含めた多様な状況にある人たちに受講機会や成長の機会提供ができたことは素晴らしい。

・今後さらにオンラインの特性を活かすなら、受講者の理解度や受講者が対象としている学習者の違い、受講者の地域別の違いなど、各受講者の状況や多様性に合わせてLMSの講義動画の構成や内容を変える研修形態にすることも一案。

4. 成果と課題

○事業成果

本事業全体の目的である①「養成・研修報告」の円滑な普及を促すとともに②日本語教育人材の資質・能力の向上を図る、についての成果は以下のとおり。

①普及	・本事業の普及という観点において、申込100名以上、受講者97名、修了者93名という結果となり、初任研修を必要とする日本語教師に広く研修受講機会を提供することができた。
	・本研修を通じて就労者向け日本語教育の知見を全国各地に普及するという観点において、全国各地域ブロックから複数名が受講者した。
	・日本語教師の研修の場や機会を広く普及させることを目的とし、AOTSが本事業を実施するにあたり得られた研修実施ノウハウを「研修プログラム運営実施マニュアル」としてまとめ、公開することで、各日本語教育機関における自主的な教師研修において活用できる情報を提供した。
	・研修科目の一部を公開し、研修の内容や様子がイメージできるようにすることで、本事業の普及とともに、教師研修に対する関心を高める取り組みを行った。
②日本語教育人材の資質・能力の向上	・「養成・研修報告」に示された「就労者に対する日本語教師に求められる資質・能力」の向上を図るための研修カリキュラムを実施した結果、受講者による事前・事後の自己評価からは、知識・技能・態度のいずれの全体値も向上に結び付けることができた。
	・受講者の本研修満足度調査においても高い満足度結果が得られ、日本語教師【初任】に相応しい研修プログラム内容を実施できたといえる。
その他	・研修プログラム終了後も持続可能な受講者・講師・事務局のネットワーク構築を図り、7割以上の受講者が参加するFacebookグループを立ち上げ、就労者に対する日本語教師の情報共有や意見交換の場とするための基盤をつくることができた。

4. 成果と課題

○事業評価

下記①～⑮の事業評価小項目に関する受講者へのアンケート結果、並びに、研修実施の実績内容を5段階で点数化した平均値をもとに大分類(1.妥当性、2.有効性、3.普及度、4.持続性、5.プロセス)の事業評価を行った。

大分類	小分類	事業評価 大項目	事業評価 小項目		小項目 平均値	大分類 評価点	AOTS事務局による 定性評価コメント
			4～5:とてもよくできた 3～4:まあよくできた 2～3:どちらともいえない 1～2:あまりよくできなかった 0～1:全くできなかった			4.6～5.0:A 大いに評価できる 4.1～4.5:B およそ評価できる 3.1～4.0:C どちらともいえない 2.1～3.0:D あまり評価できない 0～2.0:E 全く評価できない	
1.妥当性	1)研修 プログラム実 施	(1)研修 内容	①時期・期間・回数	4.6	4.37	B	・事業目的にそった研修を実施し、時期 や期間、受講形態や学習時間、講師や学 習内容など、受講者のニーズや関心 に対応した妥当性の高い事業となった。 ・各科目の内容に関する学習時間や課 題量の見直し、LMS運用方法の受講者 向けマニュアル作成など、今後の改善を 図りたい。
			②科目数・科目内容	4.6			
			③日程・時間割	4.5			
			④各科目の担当講師	4.5			
			⑤各科目の内容に対する学習時間	4.0			
			⑥各科目の難易度	4.7			
			⑦実施形態・方法	4.3			
			⑧LMS運用方法	3.8			
2.有効性			⑨受講者の各科目の理解度	4.2	4.47	B	・受講者の研修内容の理解や「資質・能 力」の習得が確認できた他、受講者自身 の意識の変容につながる研修となった。 ・各科目の内容の改善を図ることや、小 テストの難易度をそろえることで、理解 度確認方法の精度を高める必要あり。
			⑩「求められる資質・能力」の習熟度	4.0			
			⑪事業満足度評価結果	4.7			
	(2)受講 者	⑫受講者の意識の変容	5				

4. 成果と課題

○事業評価

大分類	小分類	事業評価 大項目	事業評価 小項目 4～5:とてもよくできた 3～4:まあよくできた 2～3:どちらともいえない 1～2:あまりよくできなかった 0～1:全くできなかった		小項目 平均値	大分類 評価点 4.6～5.0:A 大いに評価できる 4.1～4.5:B およそ評価できる 3.1～4.0:C どちらともいえない 2.1～3.0:D あまり評価できない 0～2.0:E 全く評価できない	AOTS事務局による 定性評価コメント
3.普及度	1)研修プログラム実施	(2)受講者	⑬受講者目標人数	4.9	4.34	B	・受講者に対してだけでなく、科目の一般公開や研修運営実施マニュアル公開など、就労者に対する日本語教育や、その教師研修に関心のある関係者に対しても有益な情報や内容を発信し、普及への取り組みができた。 ・ネットワーク構築は一定の成果が見られたが、受講者同士のつながりがより醸成される研修内容の設計やネットワーキングの仕掛けが求められる。
			⑭申込定員	5			
			⑮申込者数	5			
			⑯出席率	4.75			
			⑰修了者数	4.8			
		(3)受講者募集	⑱募集期間	4.0			
			⑲広報媒体・ツール	3.9			
		(4)研修プログラム内容紹介	⑳一部動画の一般公開	5			
			㉑一部科目の一般公開	5			
		(5)ネットワーク構築	㉒事務局・講師・受講者	3.4			
			㉓受講者間(SNS活用)	4.3			
			㉔各地域ブロックからの受講割合	3			
			㉕自治体・交流協会・諸団体等との連携	4			
			㉖研修運営実施マニュアル公開	4			

4. 成果と課題

○事業評価

大分類	小分類	事業評価 大項目	事業評価 小項目 4～5:とてもよくできた 3～4:まあよくできた 2～3:どちらともいえない 1～2:あまりよくできなかった 0～1:全くできなかった		小項目 平均値	大分類 評価点 4.6～5.0:A 大いに評価できる 4.1～4.5:B およそ評価できる 3.1～4.0:C どちらともいえない 2.1～3.0:D あまり評価できない 0～2.0:E 全く評価できない	AOTS事務局による 定性評価コメント
4.持続性	4)事業 推進基盤の構築	(6)事業及び 研修実施の 円滑化	㉗事前視聴動画の作成	4.4	4.14	B	・動画教材作成、LMSを活用した研修基盤構築、事業実施マニュアル作成など今後の継続性を高める取り組みができた。 ・一方で、更なる事業実施のための円滑化に向け、実施マニュアルを随時改訂することが必要。
			㉘LMS活用方法の確立	4			
			㉙内部用運営マニュアル作成	4			
5.プロセス	5)研修 体制	(7)検討委員会	㉚開催時期・回数・時間	5	4.97	A	・外部有識者の委員を招き、専門的かつ客観的な視点で研修事業を検討及び評価する体制をつくることのできた。 ・事務局対応も受講者から高い満足度が得られた。
			㉛委員構成・人数	5			
		(8)評価委員会	㉜開催時期・回数・時間	5			
			㉝委員構成・人数	5			
		(9)事務局	㉞連絡・対応	4.8			
			㉟人員構成・人数	5			
総合評価				4.4	4.46	B	

4. 成果と課題

○外部評価委員会からの評価内容まとめ

・AOTSのこれまでの経験と実績が良い形で発揮された研修を実現できたことがよかった。特に評価すべき点としては、①実際に就労者日本語教育に求められるスキルを体系的に学べる場を設けたという点。これまでこれだけのものはなく、さらにそれを時間や場所の制約にとらわれずに受講できるようになった。それはエポックメイキングであり、評価されるべき。②二つ目は、受講者同士の理解促進や、受講者の協働のために、PadletやLMSなどのICTツールを活用して研修を実施したことが大きな成果であり、あまり日本語教育が踏み込んでいない部分も積極的に実施できたこと。

・「企業に伝わる報告書作成」という科目があるが、これは正に就労者向けの日本語教育の特徴であり、通常の日本語教育の養成では全く触れられていない部分なので、そこまで含めた研修を行っているのは非常に価値がある。今年度の経験を蓄積し継続していくとよい。

・93名の修了者が出て良い研修ができたと思う。今後のことについて、修了者にこの研修事業に関わってもらい、関係づくりを持続していければ、よいネットワーク構築につながる。また、いくつかの科目の講義動画を実際に視聴したが、就労者を取り巻く基本的な情報だけでなく、最新の動向も新たに学ぶことがあった。このように情報がしっかりとまとめられた動画で学ぶことができる本研修を通して、現職日本語教師も知識や技能をアップデートできる内容であったと思う。今後の改善としては、講義の中ではリアルな教育現場を見せることができず、教材の説明や活用の方法などを講義したが、修了者の中で実際に活躍されている方の話からは教育実践の具体的な様子も聞けると思うので、初任の受講者には刺さる内容になるはず。今後そういったところを続けていければよい。

・科目「技能人材と語彙学習」に対する受講結果の反応として難易度が高かったという点があったが、日本語教育実践全体で考えたときに、カリキュラムデザイン、その実践、教材選定、語彙選定などは日本語教育実践そのもので重要なところだと思う。せっかく良い研修カリキュラムを組んでいるので、めげずに推進してほしい。研修における講義内容は今年度のように、実際の日本語教育の実践に役立つ部分を充実していくとよい。

・研修の持続可能性という部分について、次年度に向けての改善でも説明にあったような修了者を活用した研修の実施や、受講後のアフターフォローなど、修了者や受講者が集うことのできる場をつくるなど、AOTSしかできないことを実施していくとよい。AOTSがプラットフォームとして機能するような取り組みを行ってほしい。

・9割以上の受講者が日本語教師としての意識の変容があったという結果が得られたのは大きな成果。持続可能性という点も考慮しつつ、将来的にはステップアップ講座なども考えてほしい。

・安価な受講料の研修で内容も非常に充実している一方で、受講者アンケートでは「科目数や課題が多い」という結果であったのが気になり。修了まで大変な研修であったとは思いますが、これほど充実した研修であることを受講者にも理解してもらえるマインドセットを考えていけるとよい。

・受講者に若い層が少ない点について、20～30代の日本語教師たちは、自分の将来やキャリア形成に対してどのように考えているのか気になる。20～30代で日本語教師をやっている、これからも継続して日本語教育に携わり、キャリアを積んでいこうと思える・思っている若手日本語教師のための取り組みは、この研修事業も含めてよく考えていければよい。

4. 成果と課題

○課題と改善内容

今年度の本事業及び研修プログラム実施にかかる課題と改善内容は以下のとおり。

	課題	改善
コースデザイン演習	コースデザイン演習は、12月の4週連続の土曜日という日程であり、受講者にとっても担当講師にとっても日程がタイトであるためにコースデザイン成果物作成・指導にかけられる時間が限られていた。	事業及び研修プログラムの全体日程を前倒し、コースデザイン演習の期間を1ヶ月延ばし、計2ヶ月間の隔週で実施することで、講師による進捗状況把握や受講者によるプログラム時間外のグループ活動の取り組み等を通して研修効果を高める。
受講者間ネットワーク構築	受講者へのアンケート回答結果からは、受講者間のディスカッションやオンライン交流を通じた学び合いや情報交換が有意義であったというコメントが多く寄せられた。その一方で、プログラム内での受講者間ネットワーキングをもっと行いたい、というニーズも高かった。	研修期間中、受講者・修了者・講師・事務局による意見交換のためのオンライン意見交換会を開催し、現職日本語教師が幅広く横のつながりを醸成できるプログラムを設ける。また、本研修の修了者をゲストスピーカーとして招き、「日本語教育実践の事例紹介」等のプレゼン発表会を行うなど、修了者とのネットワーキングも企画する。
研修プログラム運営	受講者問い合わせ対応は、主にメールで随時対応し、当日の講義終了後の事務連絡にて補足説明を口頭で行うなど対応したが、フルオンラインかつ受講者にとって不慣れなLMS等の併用などもあり、受講手順を理解できていない受講者もいた。	研修プログラム内で受講者からの質問や意見に対応する時間枠を事前に設けておき、受講にあたっての疑問や不明点などを受講者全体で共有・解消することで、さらなる円滑な研修プログラム運営及び研修受講体制の構築に結びつける。